

福岡県で見出された緑化樹の病害 (続の4)

福岡県林業試験場 小 河 誠 司

福岡県下で新たに確認された樹木の病害について、その特徴を報告する。

1. ユキヤナギのすすかび病 (新称)

Cercospora sp.

病徴 : 葉に0.5mm前後の暗褐色の不整円斑が作られる。病斑は拡大またはゆ合して10mm程度に達するものもある。拡大病斑中心部は明るい褐色となり、健全部との境界は極く狭い暗褐色帯で囲まれる。病斑裏面は褐色で境界は明瞭である。病斑の拡大や多数の病斑形成により、病葉は病斑周囲、病斑から先端部、葉縁部へかけて黄変し、早期に落葉する。

0.5mm程度の病斑から、病斑上面に暗緑褐色で毛ば立った子実体が認められる。

病原菌 : 分生子梗はやや密にそう生する。分生子梗は無色単細胞で短い。分生子は無色で3~4節、着生部平滑、先端部はやや細まり、直またはわずかに彎曲する。大きさは35μ~47.5μ×2.5μ~3μである。

ノート : 本病は当場見本園および久留米市文化センター日本庭園内に植栽のユキヤナギ (*Spiraea Thunbergii*) に1981年10月に見出したものである。ユキヤナギはバラ科 (Rosaceae) シモツケ属 (*Spiraea*) の落葉低木で、*Spiraea* 属にはシモツケ (*S. japonica*)、シジミバナ (*S. prunifolia*)、コデマリ (*S. cantoniensis*)、イワガサ (*S. Bulmei*) 等がある。*Spiraea* 属には南米ガテマラでシジミバナ上に *Cercospora spiraeicola* Muller et Chung が記載されているとの報告がある¹⁾。また、*Physocarpus* 属植物上 (テマリシモツケ・*P. amurensis*, ケアメリカシモツケ・*P. opulifolius*) で見出された *Cercospora* 属菌も *C. spiraeicola* に包括されるとの報告の中で、*Physocarpus* 属上の *Cercospora* 属菌の人工接種では *Spiraea* 属、*Stephanandra* 属、*Sorbaria* 属などには発病しなかったという記載がある¹⁾。今回ユキヤナギ上で見出された *Cercospora* 属菌がこの *C. spiraeicola* と同一種であるか否かの検討が必要であるが、ここでは本邦でも *Spiraea* 属植物上に *Cercospora* 属菌が見出されたこと、病名をすすかび病 (テマリシモツケ類には *Cercospora* 属菌による病名に褐斑病をあてているが²⁾

ユキヤナギにはすでに *Cylindrosporium* 属菌による病名に褐点病が記載されている³⁾。) とすることを提唱する。

表-1 福岡県下で新たに見出された緑化樹の病害

	寄主名	病名 (病原菌名)
落	カリン	白かび斑点病 b)
	コブシ	<i>Cercospora</i> a)
	ザイフリボク	<i>Cercospora</i> a)
	ヘラノキ	<i>Cercospora</i> a)
	ユキヤナギ	<i>Cercospora</i> a)
	ハナミズキ	灰色かび病 c)
葉	ホオノキ	灰色かび病 c)
	ミツバアケビ	さび病 d)
	キミノカマツカ	赤星病 e)
	ケカマツカ	赤星病 e)
	ウグイスカグラ	黄褐斑病 f)
常緑	ユウカリ (ロブスター)	角斑病
	カルミヤ	褐斑病 g)

a) 病名のないもの, b) 堀江博道・小林享夫: 日植病報 48, (1): 135, 1981, c) 小河誠司: 森林防疫投稿中, 1982, d) 伊藤誠哉: 大日本菌類誌 2 (3), 1950, e) 原撰祐: 赤星病の研究 46, 1925, f) 小林享夫: 緑化樹木の病害虫 (上) 病害とその防除, 215, 1977, g) 堀江博道・小林享夫・佐々木克彦: 日植病報 42 (3), 1976

2. ヘラノキのすすかび病 (新称)

Cercospora microsora Sacc.

病徴 : 葉に1mm前後の暗褐色の不整角斑が作られる。病斑はのち拡大、ゆ合し5~7mmに達し、病斑中央は褐色となる。病斑の拡大は葉脈に区切られた形となり、やや角ばった病斑になることが多い。病斑周囲は脱色し黄緑色となる。病斑が数多く作られたり、ゆ合拡大した病斑が多くなると患部周囲が黄変し、やがて葉全体が黄変して早期に落葉する。病斑裏面両面に

灰緑褐色の毛ば立った子実体が作られるが、病斑裏面の方が多し。

病原菌：分生子梗は無色，単細胞で短い。分生子は無色で1～4節で3～4節のものが多い。着生部は平滑で，先端部はわずかに細くなっている。直またはわずかに彎曲し，複雑に屈曲することはない。大きさは $35\mu\sim 45\mu\times 2.5\mu\sim 3.8\mu$ である。

ノート：本病は当场見本園に植栽されているヘラノキ (*Tilia kiusiana*) に1981年10月に見出したものである。ヘラノキはシナノキ科 (Tiliaceae) の *Tilia* 属の落葉高木で，*Tilia* 属にはヘラノキの他に，シナノキ (*T. japonica*)，ボダイジュ (*T. Miqueliana*) 等がある。*Tilia* 属植物上には欧米から *Cercospora microsora* Saccardo が報告されている。ヘラノキ上の病徴および病原菌の形態は，Chupp (1953) の記載する *Cercospora microsora* のそれらによく一致するので，同一種と同定する。なお，堀江・小林 (1980) は導入種 *Tilia tomentosa* 上に *Cercospora sp.* による葉枯性病害をリストにあげているが，病徴，形態の記載がなく比較できなかった。

3. ザイフリボクのすすかび病 (新称)

Cercospora sp.

病徴：葉に1mm前後の暗褐色病斑が作られる。病斑はのち拡大し，葉脈に区切られた不整角斑となるものが多い。拡大ゆ合した病斑は十数mmに達するものもある。病斑と健全部との境界は1mm前後に脱色黄変し，のち黄変部は周辺に拡大して大きな病斑，数多くの病斑部全体が黄変する。病斑裏面は褐色で健全部との境界は明瞭である。病斑部には光沢のある黒色小粒点が多数作られ，やがて暗灰褐色の毛ば立った菌体で覆われる。

病原菌：分生子梗は無色～淡緑色，単細胞で短い。分生子は無色～淡緑色で1～4節，着生部は平滑で基部が太く，先がやや細まり，直または一方にわずかに彎曲する。大きさは $27.5\mu\sim 57.5\mu\times 2.5\mu\sim 3.8\mu$ である。

ノート：本病は当场見本園に植栽されているザイフリボク (*Amelanchier asiatica*) に1982年8月に見出したものである。ザイフリボクはナシ亜科 (Pomoideae) の *Amelanchier* 属の白色の花が美しい落葉小高木である。ナシ亜科植物上には，ボケに *Cercospora cydoniae*，シャリンバイに *C. violamaculans*，ナナカマド類に *C. ariae*, *C. sp.*，ビワ，カナメモチに *C. eniobotryae*，ピラカンサ類に *C. pyracanthae* 等の記載がある²⁾ が，*Amelanchier* 属には *Cercospora* 属菌の記載はないようである。ナシ亜科植物上の *Cercospora* 属菌との異同は後程検討するとして，ここでは *Amelanchier* 属に *Cercospora* 属菌が見出されたことと，病名としてすすかび病をあてることを提案する。

引用文献

- (1) 堀江博道・小林享夫：植物防疫 36 (1), 30～31, 1982
- (2) 香月繁孝：日菌報，別冊1，1～100, 1965
- (3) 小林享夫：緑化樹木の病害虫 (上)，135, 東京，1977
- (4) Chupp, C; The fungus genus *Cercospora*, 564～565, Ithaca,
- (5) 堀江博道・小林享夫：東京農試研報 13, 77～94, 1980